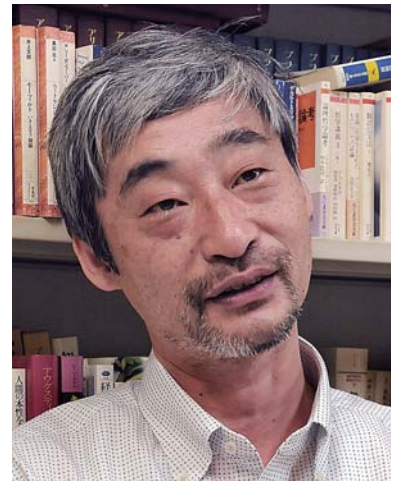


役に立ちそうもない問題を考える

理事（学生担当） 川 添 信 介

新入生のみなさん、京都大学へのご入学おめでとうございます。みなさんへの歓迎と期待のことばを述べたいと思います。

いま私は「入学おめでとう」と書きましたが、どうして入学はめでたいのでしょうか。みなさんが厳しい入試に「たまたま」受かったからなののでしょうか。そうだとしたら、運がよかったことがめでたいのだということになりますが、たぶんそうではない。京大に入学できたのはみなさんの長年の「努力の成果」だからです。努力が報われてみなさんは入試問題を解くことができたのです。しかし、努力して勉強すれば正解にたどり着くのは「当然の因果関係」であって、どこにめでたさがあると言えるのでしょうか。あるいは、同じだけの努力をしたと思える友人が受験に失敗したことを考えると、入学できたあなたはやはり「たまたま」の幸運に恵まれただけなののでしょうか。更にもう少し考えてみると、運が多少は関係しているにしても、あなたが入学試験のために「努力することのできる人間だった」ことが特別なことであって、自分がそのような特別な存在であることを祝いでよいということでしょうか。しかし「自分が努力のできる特別な存在であったのは、なぜなのか」とさらに問うことができ、この問いに「それは自分が努力したからだ」と答えることはできません。「努力できる特別な存在になれたのは自分の努力のためだ」という答えは答えになっていないからです。それでは、自分の家庭環境が恵まれていたから入試のために努力することができたのでしょうか。でも、みなさんの家庭環境は、親を選ぶことはできないことを考えると、基本的にはみなさん自身の努力で手に入れたものではないでしょう。そうすると、「最終的にはいったい何があなたを京都大学に入学させたのか」、そして「結局のところ、自分の入学の何がめでたいのか」が分からなくなってしまうのでしょうか。



こんな風に、「入学おめでとう」というごく当たり前の挨拶にすぎないことばをきっかけにして、さまざまなことを考えてみるができます。こんなことを考えてみても、さしあたりは

「何かの役に立つ」ことはありません。あなたが京大に入学でき、友人は入学できなかったというのは事実であり、そのまま受け容れるしかないことであって、その理由を問うても答えは簡単には出てきそうもないことだからです。

しかし私は、みなさんが京都大学で学んでいるあいだに、このような無駄とも思えることを考えて欲しいと願っています。なぜなら、こんなことは大学生でいるときにしかできないからです。いわゆる「実社会」では所与の現実をそのまま認め、そこにある当面の課題に対処し解決することが求められます。「現実から身を引いて、その現実の根拠をじっくり眺めて吟味してみる」ことは、大学の外では多くの場合に求められることもないし、許されもしない。しかし、少子化や原発といった現実の社会が抱えている具体的な問題の多くも、実は「簡単には答えの出ない」問題なのです。人は答えの見つからないかもしれない問題を抱えながら、その問題とつきあっていかなければならない。そこが受験勉強と決定的に違うところです。京都大学は「答えの出にくい問題を考える」ことが可能な場であり、それは正課の授業だけではなく、サークル活動などの正課外の場面でも可能です。みなさんにはそのような機会を作って欲しいと思います。

この「学生便覧」は、正課の授業をのぞいて、みなさんの学生生活にかかわって京都大学が提供している様々なサービス・支援内容を記したものです。衣食住など、どれも学生生活の「足腰」にあたるものですから、ぜひ全体をご一読ください。その足腰をきちんと整えたうえで、みなさんがすぐには役に立たないかもしれないが知的な挑戦に満ちた学生生活を過ごされるよう願っています。